

桜谷軽便鉄道のしおり



種別	番号	外形(L×W×H)	出力	製造年月	備考
人車	-	1260×720×1450	-	2015年8月	こども人車軌道用
客車	ホハ8	2180×730×1550	-	2013年11月	キハ3から改造
電気機関車	ED51	2400×720×1500	600W	2013年4月	
ガソリン動車	キハD11	2670×760×1550	300W	2012年6月	改造中
電車	10	2400×760×1500	600W	2011年8月	上田交通風
客車	ホハ7	2420×735×1500	-	2009年12月	
客車	201	1180×690×1540	-	2008年7月	
電車	モハ1408	2400×730×1500	220W	2005年5月	秋保電車風
貨車	ホト71	1800×610×520	-	2004年11月	草軽電鉄風
客車(付随車)	150	2400×700×1500	-	2004年7月	
電気機関車	デキ12	1200×600×1500	232W	2004年1月	草軽電鉄風
客車	301	1220×700×1450	-	2001年12月	
蒸気機関車	8	1400×520×1470	0.2馬力	2000年11月	廃車
バッテリー機関車	7	1100×520×1460	116W	2000年5月	蒸気機関車型
バッテリー機関車	2	960×470×670	100W	1997年5月	休車
台車	16	850×460×710	-	1996年7月	

2022年11月現在の在籍車輛

写真上 桜谷駅
 写真左 風の峠駅
 写真右 風の峠車庫

桜谷軽便鉄道(さくらだにけいべんてつどう)は大阪府豊能町内にある15インチゲージ鉄道です。法規上の鉄道ではなく、個人が趣味で運行している模型鉄道です。メインの路線は『南山(みなみやま)線』と称しています。『桜谷』という鉄道名・駅名は当地で昭和のはじめまで操業していた銅鉱山「桜谷鉱山」から、『風の峠』という駅名は宮沢賢治の「風の又三郎」や「銀河鉄道の夜」のモデルになった岩手軽便鉄道の終点「仙人峠」のイメージを重ね合わせて命名しました。路線名の『南山』は当地の古い地名です。

■軽便鉄道(けいべんてつどう)とは?

狭義では1910年に施行された『軽便鉄道法』に基づいて建設された低規格の鉄道を言いますが、一般にはJ R線より軌間の狭い地方鉄道や森林・鉱山・産業用鉄道を意味して使われることが多いようです。

■15インチゲージ鉄道とは?

桜谷軽便鉄道は15インチゲージ鉄道です。ゲージとは二本のレール間隔のことで、15インチは381mmです。新幹線をはじめとする世界標準軌は4フィート8インチ半(1435mm)、J R線は3フィート6インチ(1067mm)が採用されています。15インチ鉄道は20世紀初頭に英国の小規模鉱山や工場で使用されました。現在でも「ロムニー鉄道」や「レイブングラス鉄道」では、公共鉄道として旅客列車を運行しています。

■路線

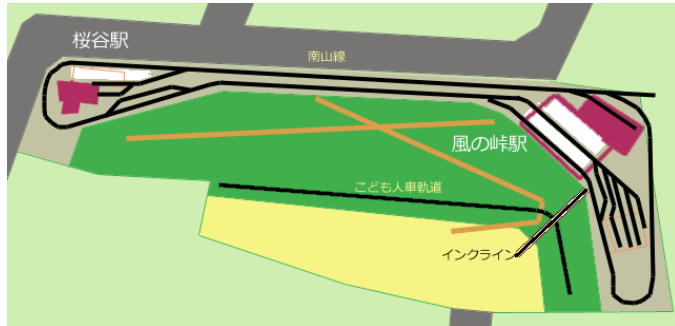
南山線は1周150メートルのドッグボーン型で『桜谷』駅と『風の峠』駅があり、両駅間を約2分で結びます。また、南山線より一段低い場所には単線50メートルの『こども人車軌道』があります。

■運転会のご案内

毎月第1日曜の午後1:30頃~3:00頃、南山線で運転会を実施しています。運転会とは、どなたでも桜谷軽便鉄道の列車にご乗車いただけるイベントです。運転会の参加(見物および乗車)は無料です。駐車場はありませんのでご来場には電車・バスをご利用ください。お体の不自由な方など、公共交通機関の利用が困難な場合はご相談ください。感染症対応で休ままたは特例措置を行うことがあります。公式ホームページをご確認ください。

■交通アクセス

J R宝塚線川西池田駅・阪急宝塚線川西能勢口駅から、能勢電鉄妙見口行きに乗車25分「妙見口」駅下車徒歩10分。(右の地図をご覧ください。) 国道477号線沿い、右手に「ときわ台」住宅地が見ると左手に家庭菜園用地的の入り口があります。入り口脇に踏切警報機が立ち「桜谷軽便鉄道→」と書かれています。緑色の鉄門扉を入り坂道を登ると桜谷軽便鉄道です。なお、運転会の時間帯以外は扉が閉まっていることがありますのでご注意ください。



【桜谷鉱山】

桜谷(さくらだに)鉱山は、大阪府豊能郡豊能町内にあった銅鉱山である。明治・大正期に「銀・銅・亜鉛鉱山」として栄えたが、やがて衰退し、休止状態が続いた。ところが第二次世界大戦によって鉱山景気が起こり、この桜谷鉱山も再開発されたという。現在は、町立の中学校の敷地になり、昔を偲ぶものはなにも残っていない。しかし、現在ベッドタウンとして賑わっているこの大地の地下には、幾筋もの坑道が眠っているといわれている。

『豊能町史』には「鉱山の再開発と消滅」と題して以下のような記述が見られる。
 「1920年(大正9)以降、大阪府下では鉱山の採掘は全くみられなかったが、日中戦争開始後金属の価格が高騰するとともに、ふたたび鉱山採掘の動きがあらわれ、1939年(昭和14)からは『大阪府統計書』に鉱石販売価格が一万円程あらわれる。吉川村の桜谷鉱山が再開発されたのは1938年である。桜谷鉱山は、所在地吉川村、鉱種は銀・銅・亜鉛、坪数28,900坪、1930年(昭和5)に採掘許可を受けている。」(日本の金属鉱山 <http://www.miningjapan.org> より)



戦時中再開発された桜谷鉱山
 【大阪朝日新聞
 1938年10月14日付】

